学校法人 青山学院

2019年度 事業計画書

Aoyama Gakuin since 1874

目次

「青山学院・新経営宣言」の概要 …… 2
「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」の概要 …… 3

各設置学校及び学院の事業計画
Ⅰ. AOYAMA VISION を実現するための「4Challenges」 …… 4
1. 世界と未来を拓く教育 …… 4
2. 世界をリードする研究 …… 9
3. 世界が求める社会貢献 …… 11
4. 世界に誇る知的インフラ …… 13

Ⅱ. 新経営宣言の実現 …… 15
1. 万代基金の構想 …… 15
2. ブランドロイヤルティの再構築 …… 15

Ⅲ. その他 …… 15

はじめに

青山学院は、2017 年 11 月に「青山学院・新経営宣言」～Be the Difference～ と「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」～青山学院 150 年への挑戦～ を発表し、二つの宣言を経営と教学の両輪として青山学院の成長・発展を推し進めてまいりました。

そして、2018 年 11 月には、新経営宣言の更なる浸透と行動促進を目的とした「マネジメントコンセプトブック」を発行し、青山学院の教育・研究を支える“経営”に焦点を当て、各設置学校の挑戦と飛躍を後押しする強固な基盤づくりに、教職員一丸となって取り組んでいます。

「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園」というヴィジョンの実現に向けた各設置学校の教育・研究等の取り組みと、それらを支える学院の取り組みを、本事業計画書にまとめましたのでご覧ください。

「青山学院・新経営宣言」　～Be the Difference～

「青山学院・新経営宣言」は、少子化、学校間競争の激化、グローバル化といった学校環境の変化に対応するための経営戦略の基本フレームであり、経営発展モデル構想を示したものです。そして 、“Be the Difference” は、「わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っています」（新約聖書 ローマの信徒への手紙 12 章 6 節）と「あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから」「その賜物を生かして互いに仕えなさい」（新約聖書 ペトロの手紙（一）4 章 10 節）とから導かれた経営スローガンです。

この経営スローガンは、「地の塩・世の光」というスクール・モットーとともに青山学院を支える価値観であり、学院に係わる一人ひとりの個性や各設置学校の独自性といった多様な価値を尊重し、幼稚園から大学院までを擁する総合学園として、時代と社会が求める世界に羽ばたくサーバント・リーダーの育成を目指すものです。

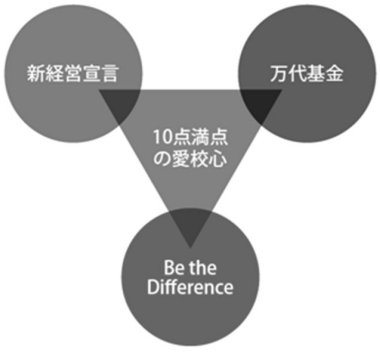
より良い教育・研究を実践していくには学院の財政基盤の安定が欠かせません。志ある若者の経済支援に心を砕いた万代順四郎氏*1 の遺志を受け継いで、奨学金や質の高い教育・研究を行うための資金を充実させるため、万代氏の名前を冠した「万代基金*2」を設立しました。

この「万代基金」を支えるのは、校友、在校生、保護者等の青山学院に係わる全ての方が誇る愛校心です。これらの方々から「10 点満点の愛校心*3」の評価を頂くに値する、魅力あふれる学院として、青山学院はこれからも成長・発展を続けます。

Be the DifferenNce®

“世界は一人ひとりの力で変えられる”

Each of us can make the world a better place



4 つの基本戦略

＊1）青山学院高等科卒業。三井銀行取締役会長、帝国銀行取締役頭取などを務め、戦後はソニー株式会社創立期の取締役会長や日本経済団体連合会常任理事として活躍した。青山学院では理事長・校友会会長などを歴任。

＊2）青山学院発展のために万代氏からいただいたご寄付をもとに発足した「万代奨学金」を、充実・増強すべく「万代基金」として再組成したもの。給付型奨学金の充実と教育・研究の質的向上を最重要課題としている。

＊3）青山学院に係わる方々へのブランドロイヤルティ（愛校心）調査の指標は、10 点をもって満点としている。

「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」～青山学院 150 年への挑戦～

2017 年 11 月に発表した「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」は、2014 年に策定した AOYAMA VISION の「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園」というヴィジョンはそのままに、サービス・ラーニングやグローバル化を中心に取り組んできた「3 つのテーマと 7 つのアクション」と「青山学院グローバルアカデミックタウン」「飛躍する学院を支える基盤整備」の柱を、150 周年に向けて挑戦する学院の姿勢を示した「4Challenges」に再構成したものです。根底にあるグローバル化推進を継続しつつ、「世界の AGU」を目標に掲げる大学の 10 の Action を主軸に、ヴィジョン実現に向けた取り組みを実行していきます。

Vision 2014-2024

すべての人と社会のために
未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園

今、世界が必要としているのは、自分の使命を見出して進んで人と社会とに仕え、
その生き方が導きとなる人、サーバント・リーダーです。

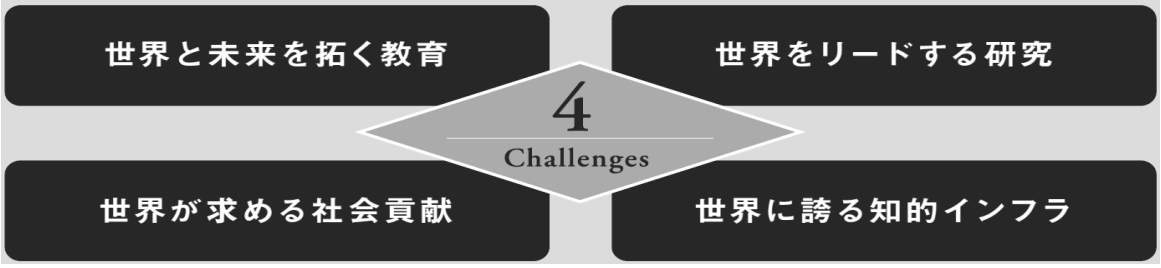
青山学院が育むサーバント・リーダーは、

リベラルアーツ・ 深い専門知識	他者を敬い 違いを受け入れる心	人と社会に 仕える行い	Sincerity Simplicity

を兼ね備えた人、すなわち「地の塩、世の光」を体現する人物です。

AOYAMA VISION実現の強い意志を「4 Challenges」に込めて

AOYAMA VISIONは、150周年への更なる飛躍を目指した「青山学院の挑戦」の表明です。
学院の基本使命である「教育」と「研究」、その成果を活かした「社会貢献」、快適かつ最先端の「知的空間の創出」。
これら4つを挑戦の柱に据え、"世界"に羽ばたくサーバント・リーダーを育成するべく、数々のActionを展開していきます。



Mission

建学の精神

青山学院の教育は、
永久にキリスト教の信仰にもとづいて、
行われる。

教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

スクール・モットー

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World.
（聖書 マタイによる福音書 5章13-16節より）

各設置学校及び学院の事業計画

Ⅰ．AOYAMA VISION を実現するための「4Challenges」

1. 世界と未来を拓く教育

グローバル・プレゼンスの確立【大学】

・海外大学からのインターン生受入れ

理工学部では、タイを中心に海外大学からのインターン生を積極的に受け入れています。インターン生は、学部の研究室に約 2 カ月滞在し、本学での学びを体験します。本プログラムを通して、本学の世界レベルの基礎研究力と理工学部の魅力を発信することで、優秀な海外大学の学生の継続的な受入れにつなげ、理工学研究科の外国人留学生の増加へと発展させていきます。2019 年度は、インターン生受入れ人数を増やすとともに、アジア諸国及び欧米圏の派遣元大学の更なる開拓に取り組みます。

・派遣留学生、私費留学生への奨学金の充実

グローバル社会での活躍を志望する学生の学びを後押しするため、派遣留学生・私費外国人留学生への給付奨学金の充実を図っています。特に、本学の協定校のうち、世界ランキング 100 位以内のトップレベル大学へ留学する学生への経済的支援やインセンティブとして、奨学金を増額し、目的意識の高い意欲ある学生の学びをサポートしていきます。

・国際交流協定校開拓及び開拓活動基盤の整備事業

大学間協定校の数を、2019 年度は 155 校まで拡大することを目指します。英語圏の大学への協定校留学を希望する学生が多い中、英語圏及び英語で授業を行う海外大学との交流協定の開拓は喫緊の課題です。2018 年度に引き続き、協定候補校への訪問、北米・ヨーロッパ・アジア太平洋の留学フェアへの参加、英文ウェブサイトのリニューアルを通じて、本学の魅力発信と海外におけるプレゼンス向上を図り、協定校数を増やして、学生に多様な留学先の選択肢を提供していきます。

多様化する教育ニーズへの対応【大学】

・社会人講座「青山アカデメイア」

学びを継続する社会人のために、本学独自の社会人教育プログラムとして、“卒業のない大学”「青山アカデメイア」を 2018 年 4 月に開設しました。2018 年度は、英語やフランス語の実践的な語学講座や地域政策人材開発講座等を開講し、延べ約 150 名の社会人が受講しました。2019 年度は、都市研究や聖書等の新たなテーマの講座を追加するほか、大学の正規科目を現役の学生と一緒に受講できる

講座も新設します。更に、協定を結んでいる東京外国語大学との連携プログラムとして「司法通訳養成講座」を開講します。来日外国人の増加により司法通訳の需要が高まる中、法学部を擁する本学は、司法通訳に不可欠な専門知識を修得するプログラムを提供し、質の高い通訳の養成に貢献します。また 2019 年 9 月には、社会人教育充実のため、リカレント教育センター（仮称）を開設します。

・スポーツを通じて社会に貢献する人材やソリューションを提供する学内体制の構築

これから迎える超高齢化社会においては、健康福祉やコミュニティ形成におけるスポーツの役割とその貢献に期待が寄せられています。また、アスリートのキャリア拡大も課題であり、スポーツの経験を活かした職種の多様性が求められています。本学の「スポーツキャリアプログラム」では、こうした課題解決のためのソリューション開発とスポーツを通じて社会に貢献する人材の育成に取り組み、スポーツに係る学際的な学びの場を提供し、学生アスリートの競技技能向上にもつなげています。2019 年度は、教育プログラムとして既に開講されている正規科目を全学展開していくとともに、体制をより強化すべく学内組織の一元化を目指します。また、各研究開発プロジェクトのモデル研究の実施、地域・社会連携プロジェクトが企画する講習会の規模拡大や多様化にも取り組みます。

・ものづくり工房（仮称）の設立

学生が自由な発想で“ものづくり”ができる環境を整備するため、「ものづくり工房（仮称）」を相模原キャンパスに設立します。全学部の学生に施設を開放するため、専門知識を持たない初心者でも安全に工作ができるように、安全性の高い樹脂製の造形が可能な 3D プリンタを複数台導入します。学生のニーズに応える施設・サービスを提供するとともに、将来的には、理工学部が所管する機械工作室（主に金属材料を加工するための大型設備を設置）との融合も視野に入れながら、総合的なものづくり環境の整備に取り組みます。

ライフプランを見据えた就職支援強化【大学】

・海外インターンシップ推進事業

大学では、グローバルな舞台での活躍を目指す学生のキャリア支援として、海外インターンシップを推進しています。学生の希望に沿った業種・職種のインターンシッププログラムを提供するため、受入れ先の開拓を図り、学生のキャリアプランニングを支援します。2019 年度は、地域を米国・オーストラリア・ニュージーランドの 3 カ国 4 都市に集約し、リエゾンオフィスとの協力体制で取り組み、参加者数の増加を目指します。

女子短期大学・大学の教育連携の強化【女子短期大学】

2019 年度より学生募集を停止した女子短期大学では、在籍する学科 2 年生以上と専攻科の学生への教育を継続しています。一方で、女子短期大学保有の施設や女子教育のノウハウ、人材等を有効活用するため、大学との連携も具体的に進めています。2019 年度も、教室貸出の拡大や、女子短期大学で独自に行ってきたボランティア活動の共同実施と引継ぎ、宗教センター・教育メディア運用室・図書館等の機能の移管に向けた調整作業等、円滑な段階的移行に取り組みます。

文部科学省スーパーグローバルハイスクールの取り組み：高等部教育全体の中での位置付けの確定と「経験のサイクル化」の取り組み【高等部】

高等部は、スーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受けて 2019 年度で 5 年目を迎えます。これまで、海外プログラム（短期交換留学、フィリピン訪問プログラム、東ティモールスタディツアー等）への参加、これらを経験した生徒たちの学びを全校生徒で共有する「グローバルウィーク」の実施、各自の関心テーマを深く掘り下げる「平和共生ログブック*」及び平和共生論文の作成等を通じて、生徒たちは世界情勢や社会問題への意識を高め、それを「自分事」として捉えて問題解決に導く姿勢を身に付けてきました。2019 年度もこれらの取り組みを継続するとともに、「総合的な探求の時間」と連動させて経験のサイクル化を図り、全校生徒の共有の場を増やしていきます。更に、SGH の各プログラムを体系的に整理し、高等部教育全体における位置付けを明確化していきます。

＊）様々な教科を横断した総合的な平和・共生学習の記録ノート。2～3 年次にかけ、一つのテーマを決めて研究論文を書くように構成されている。

ICT 教育環境整備・タブレット端末機器導入【高等部】

2018 年度に各教室への電子黒板機能付きプロジェクターの設置と Wi-Fi 環境の整備が完了し、ICT 機器を導入した授業改革を進めています。2019 年度は、全教員がタブレット端末を保有し、ICT 機器を活用したアクティブ・ラーニング授業の展開に向けた教材開発や環境改善の検討を行います。更に、生徒一人につき一台のタブレット端末導入について、2020 年度より新入生を対象に実施し、2022 年度には全校での導入を実現するため、その準備に取り組みます。

教科型教室環境における新しい教材、教育ツールの導入【中等部】

中等部が導入する「教科センター型教室」では、教科の特徴を備えた教育機器を整備した専用教室や、主体的な学習や生徒の作品展示等が可能なメディアスペースを設けて、ハードとソフトの両面から生徒の学力向上を図る教育を行っています。教科センター方式を採用して 3 年目となる 2019 年度は、各教科のメディアスペースの利用状況を調査し、生徒対象のアンケート結果も踏まえて、より有効的な活用方法を検討し採用します。また、生徒一人につき一台のタブレット端末導入についても具体的な検討を進めます。

新規海外研修プログラムの導入に向けた取り組み【中等部】

現在実施しているオーストラリアホームステイ（夏期）、韓国（梨花女子大付属中）学校訪問、フィリピン訪問の各プログラムに加えて、新たな交流プログラムを導入するため、中国・オーストラリアにおいて現地調査を実施します。生徒に多様なグローバル体験を提供するとともに、学校間交流の活性化を図っていきます。

グローバル教育の推進、サマープログラムの実施【初等部】

グローバル教育の一環として、語学教育と科目（教科）教育の両方を英語で修得するサマープログラムを導入します。2018 年度は、夏期休暇を利用した 2 週間の「イングランドサマープログラム」を実施し、5、6 年生の児童 9 名が参加しました。世界各国から集う子どもたちと一緒に、アクティブ・ラーニング型の語学研修やミュージカル制作・発表等のアクティビティを体験し、英語によるコミュニケーション力を向上させるとともに異文化への理解も深めました。2019 年度は、精度を更に高めたプログラムを実施し、2020 年度以降のサマープログラムの定着化を図ります。

Own Device 化に向けた取り組み【初等部】

初等部における Own Device 化（児童一人につき一台のタブレット端末導入）の実現に向け、その準備段階として、2018 年度より先行して 2 学年 2 クラスにおいてタブレット端末を利用した学習（学校・家庭）のトライアルを実施しました。2019 年度は、2 学年（4、5 年生）8 クラスに対象を拡大して、本格的な Own Device 化を実現させる予定です。本取り組みにより、文部科学省が提唱する「教育の情報化」に対応する教育環境の整備にとどまらず、個を活かす教育の更なる充実を図ります。また、家庭との情報共有ツールとしての活用も模索します。

「信頼・喜び・感謝」の気持ちを育む幼児教育【幼稚園】

幼稚園では、園児一人ひとりがそれぞれの個性を大切にしながら、多様性を認め合い、豊かで思いやりのある心を育てる園生活を目指しています。礼拝を大切にした生活の中で、様々な遊びや動物たちとの交流、多言語絵本で海外文化に触れる体験等から、「信頼・喜び・感謝」の気持ちを育みます。2019 年度は、異文化の背景を持つ卒園生や保護者の協力により、海外文化に触れる体験を計画しています。また、自国の文化についても触れ、親しむ機会として卒園生や保護者による歌舞伎教室を始めとした伝統文化・芸能に触れる機会を計画しています。

自校史教育の推進【学院】

青山学院は、2019 年 11 月に創立 145 年を迎えます。周年を記念して、青山学院の礎を築いたサーバント・リーダーたちが生きた歴史を振り返る展示等を展開する予定です。このような企画を通じて、自校史教育の大切さや史資料の重要性を再認識し、設置学校と関連部署が協力して自校史教育の推進に取り組み、学院の更なる飛躍につなげていきます。

学校間連携の強化【学院】

「人生 100 年時代」を見据えて、幼稚園から大学・大学院を擁する青山学院は、幼稚園から社会人向け教育プログラム「青山アカデメイア」までを一体化した「青山学院の“人生一貫教育”」を展開していきます。生涯に亘っていつでも青山学院に戻って学ぶことが可能となる、世代を超えた大きな一つの学校として各設置学校が連携して取り組みを実施していきます。

校友と学院・在校生による連携強化【学院】

校友による生徒・学生へのキャリア教育や就職活動支援、各学校行事や在校生のスポーツ・文化活動への支援等、様々な場面において校友と在校生との交流が展開されています。また、校友と学院との連携では、広報紙『あなたと青山学院』での情報共有や各支部総会への学院の参加、校友会が運営する「青学商店街*」を通じたコミュニケーションの強化等、校友の方々が青山学院とつながる仕掛けを今後も打ち出していきます。

＊）全国各地で地域に根ざした商店を運営している校友を応援する取り組みで、青山学院校友会 Web サイトや広報紙に商店・商品の紹介を掲載し、校友同士のコミュニケーションの一助となっている。

学院創立 145 周年をテーマとする企画の実施【学院】

学院創立 145 年を機に、キリスト教の原点である聖書への関心を更に高め、その信仰内容が各設置学校の教育・研究及び諸行事に展開されるよう支援を行います。また、創立記念礼拝や功労召天者記念礼拝が、サーバント・リーダーとして道を拓いた先人たちを憶える、より豊かな時間となるよう、学院の歴史と歩みを振り返る展示を企画します。

2. 世界をリードする研究

先端研究への挑戦と次世代研究者の育成【大学】

・AI（人工知能）研究拠点の形成

2018 年度に、理工学部附置先端情報技術研究センター（CAIR）内に基盤研究設備を整備した AI 研究拠点を発足し、理工学部情報系 2 学科を中心としたコアメンバーによる研究プロジェクトがスタートしました。2019 年度は、理工学部に所属する研究者の相互連携を更に強化し、外部資金獲得につながる AI 関連共同研究プロジェクトの推進基盤を構築していきます。時代の要請に応える研究、また、若手研究者の育成を本取り組みの要として、その研究成果と人材を社会に還元していきます。

・ジェロントロジー研究所における研究推進

超高齢社会に突入した日本が直面する課題に焦点を当てた研究拠点として「ジェロントロジー研究所」を 2018 年度に設立しました。本研究所は、ジェロントロジー（老齢学）という視点で学内の自然科学・応用科学・社会科学・人文学を横断する学際研究を活性化し、また企業や外部研究機関等との連携を加速することで、ジェロントロジーの新分野を開拓し、研究をイノベーションにつなげます。2019 年度は、高齢者に係る諸問題を解決する文理融合研究を推進するとともに、ジェロントロジーを社会に啓蒙する活動として一般の方を対象とした講演会等を実施します。各世代が互いを支え合う持続可能な社会の実現に本学のプレゼンスを示し、リーダーシップを発揮していきます。

・データサイエンティスト育成プログラムの確立

モノのインターネット IoT（Internet of Things）の普及や各分野における電子化処理により大量に蓄積される電子化データを、統計や機械学習等の技術を駆使して、データから新たな価値を創出する技術者「データサイエンティスト」の育成に取り組みます。本教育プログラムは、理工学研究科の大学院生を対象とし、企業・地方自治体との連携による課題解決型科目を配置した実践的学びを取り入れたカリキュラム構成で、修了者には認定証を発行します。また、本教育プログラムのエッセンスを凝縮した社会人向け教育プログラムを開講することで、より多くのデータサイエンティストを早期に輩出して社会の要請に応えていきます。将来は、企業・地方自治体との連携が新たな共同研究の創出につながることや、本教育プログラム修了者によるデータサイエンティスト育成の循環が生まれることも期待されます。

・生命システムの動態計測と複雑系解析における革新的基盤形成

理工学部では、これまでにも医療に貢献する様々な化合物の開発や複雑系である細胞内ネットワークの解析に取り組み、研究成果をあげてきました。これらとも関連した新たな研究として、2019 年度より、細胞内環境の化学計測と複雑系を取り扱う研究基盤の構築を本格化し、革新的な基盤技術の形成を目指します。これらの研究成果は、創薬や遺伝子研究等の分野への貢献も期待されます。将来的には化学・生命科学を専門とする教員の研究を融合した「ライフサイエンス研究センター（仮称）」の設立を視野に、ライフサイエンスの研究拠点を構築して本学の先端研究を牽引していきます。

・大学院活性化のための若手研究者育成奨学金制度の導入

2019 年度より、若手研究者の育成を目的として、各研究科の博士後期課程入学者、一貫制博士課程 3 年次への編入学者または進級者のうち、要件を満たす者を対象に奨学金を給付する制度を導入します。これまでも、本学の修了生の多くが研究者としてその専門性を活かし、各界を先導する役割を果たしてきました。今後も、次世代研究者の養成機関として、また革新的な研究を手掛ける研究者の発信基地として、本学はその機能を強化していきます。

グローバル・プレゼンスの確立【大学】

・フォルジャー・ライブラリーとの協定に基づく、ミランダ・プラットフォームを利用した稀覯本のデジタルイメージ化

フォルジャー・ライブラリー*が推進する、各地の稀覯本をデジタル化するミランダ・プロジェクトに、本学が日本の大学として初めて参加します。2019 年度は、本学が所蔵する 15～17 世紀に発行された聖書やキリスト教関連本 4 冊のデジタルイメージを提供し、フォルジャー・ライブラリーが運営するオンラインデータベース「ミランダ」上で世界中に無償公開される予定です。本学所蔵の貴重書コレクションが全世界の研究者と共有されることにより、図書資料の研究の拡充が図られ、日本におけるグローバル研究活動のモデルを提供する一助となります。

＊）フォルジャー・シェイクスピア・ライブラリー（Folger Shakespeare Library）。
シェイクスピア関係及び初期近代印刷本の蔵書で有名なアメリカの図書館。

情報化時代における人文知の役割の模索【大学】

・シンギュラリティ研究所における研究推進

本学では、2018 年度に「シンギュラリティ研究所」を設立し、技術の進展が社会に与える影響や諸問題について、人文・社会科学の領域から検証し、人々が期待できる未来、希望を持って生きられる社会の実現につながる研究を進めています。研究プロジェクトの第一弾として「近未来の図書館と新しい学び研究プロジェクト」を発足しました。近未来において実現の可能性があるサービスやシステムについて、本学の大学新図書館建築にも資することを想定し、開発に取り組みます。

女子教育の歴史の検証と継承を行う組織の立ち上げ【女子短期大学】

青山学院の源流の一つである女子教育の歴史を総括し、女子短期大学卒業生をはじめとする多くの女性の生涯教育とエンパワメントへと継承・発展させることを目的として、女子教育研究・ジェンダー研究の拠点となる新たな研究所の設立（仮称・ジェンダー研究所）を 2021 年度に予定しています。2019 年度は、新研究所準備委員会において、組織・運営体制等の具体的検討を行うとともに、生涯教育プログラムの試行にも取り組みます。

3. 世界が求める社会貢献

地球公共精神の涵養と社会を支えるリーダーの育成【大学】

・サービス・ラーニングパイロット科目の運用スキーム構築

2019 年度より、正課として教育学的な裏付けを伴ったサービス・ラーニングパイロット科目「サービス・ラーニングとしてのボランティア活動」を青山スタンダードに新設します。2018 年度に作成した教育成果指標を、本科目等で運用しながらその精度を高め、対外的にも評価され得る教育水準への引き上げを目指し、大学正課としての更なる科目展開を推進します。また、サービス・ラーニングにおける学習効果を高めるツールとして学生向けのハンドブックを作成し、活用していきます。

・ボランティアセンター相模原分室の基盤整備及び学生サポート体制整備

2018 年 4 月に相模原キャンパスに開設したボランティアセンターを、学生の活動実態に合わせた開室時間の設定及びセンター内の体制強化を行うため、2019 年 4 月に同キャンパス F 棟に移設し、学生にとってより利便性の高いセンターとして機能拡充を図ります。そして、学外団体との連携を深めることにより、大学の持つ専門性や組織力を社会へ還元して地域に貢献します。また、相模原キャンパスの地域性や独自性を活かした多様なボランティア活動の機会を提供することで、更なるボランティア活動の活性化とサーバント・リーダー育成の促進を目指します。2019 年度に新設するサービス・ラーニングパイロット科目とも連携し、センターとして支援を行っていきます。

ボランティアからサービス・ラーニングへの展開【学院】

・サービス・ラーニングの推進

サービス・ラーニングは、AOYAMA VISION において青山学院が目指す「サーバント・リーダー育成」の要諦です。現在、各設置学校がそれぞれ取り組んでいるサービス・ラーニングの活動を、学院全体の一貫教育を活かした青山学院らしい新たなサービス・ラーニングとして発展・展開させるために、「サービス・ラーニングセンター（仮称）」の開設を目指します。センターの開設を実現するため、2019 年度に「サービス・ラーニングセンター（仮称）」設置準備委員会を設置し、組織の構築や運営等について、具体的な検討を行っていきます。

地域・社会に貢献するプログラムの実施【学院】

・パラリンピック・パラスポーツの普及・啓蒙活動支援のための事業

2020 年の東京パラリンピック開催に向けて、「あすチャレ！アカデミー*」や「青学生向け伴走者育成講習会」プログラムを開催し、パラリンピック・パラスポーツの普及・啓蒙活動を学院全体で支援しています。パラリンピック・パラスポーツに対する理解の浸透と「サーバント・リーダー」としての資質の形成を促す事業を継続して展開します。2019 年度は、各プログラムにおいて、積極的な広報を展開することで参加者・協力機関を増やし、パラスポーツへの理解がより多くの人々に浸透するよう取り組みます。

＊）パラアスリートと共にスポーツを体験し、リアルな声を聴くことで新たな学びにつなげる体験型授業（日本財団パラリンピックサポートセンター主催）

地域・社会との連携【各設置学校・学院】

・チャットルーム改革推進【大学】

キャンパスのグローバル化の一環として活動しているチャットルームは、英語・中国語・韓国語を中心とする外国語を通じた国際交流・異文化交流の機会を本学の児童・生徒・学生に提供しています。更に、職員や校友、渋谷区、町田市、相模原市の地域住民等の幅広い層を対象としたセッションも実施しており、青山学院と社会をつなぐ場として、地域貢献・社会貢献の重要な役割を担っています。通常のチャットセッションのほかにも、IELTS 対策セッションや、ニューヨーク大学との通信セッション、国連 WFP との「食料」「飢餓」についてのコラボセッションと、多岐にわたるテーマを開講しています。2019 年度は、チャットリーダーとの 1 対 1 セッションの増設等、更なる利用者の拡大と満足度の向上を図るべく改革を進めていきます。

【各設置学校におけるサービス・ラーニングに係る取り組み例】

学院	●幼稚園から大学まで各教育課程を横断するフィリピン訪問プログラム
大学	●地方自治体との各種協定に基づくボランティア活動、地域振興支援 ●ボランティアセンターによる各種活動（渋谷地域における清掃活動・福祉支援、フィリピン等における国際協力、東北地方における復興支援活動）及びそれらを通じた学生スタッフの学習効果の可視化 ●サークル、ゼミ単位での国内外における各種貢献活動 ●青山スタンダード科目「サービス・ラーニングⅠ・Ⅱ」「サービス・ラーニングとしてのボランティア活動」
女子短期大学	●宮古市、熊本における児童・生徒に対する教育支援活動等被災地支援ボランティア活動　●現代教養コア科目「共生社会実習」
高等部	●東日本大震災の被災地の学校との交流　●横浜寿町での炊き出し等支援 ●東ティモールスタディ―ツアー（ケーススタディと現地調査） ●知的障害者支援施設「えびす青年教室」への訪問、交流
中等部	●養護老人ホームでの奉仕活動　●震災被災者支援募金活動 ●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援
初等部	●滋賀県にある止揚学園への短期留学 ●社会福祉法人鎌倉薫風学園ラファエル会・日本聾話学校への訪問 ●日本キリスト教海外医療協力会支援プログラム（使用済み切手の回収） ●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援
幼稚園	●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援

4. 世界に誇る知的インフラ

新教学システムの導入【高等部】

教学システムの全面的な更新を実施することで、カリキュラム対応や進路指導等の充実を図るとともに、新システム導入による作業の効率化により教員の業務改善を実現します。2019 年度より、業者選定や現行システムの分析、新システムの要件定義及び開発着手等の準備を開始し､2021 年 4 月からの新システム稼働を目指します。

中等部校舎の建て替え【中等部】

中等部の更なる教科教育の充実を図るため、教科センター方式を採用した新校舎への全面改築を進めています。2018 年度は第Ⅱ期工事において、新礼拝堂やメディアセンター（図書館）等の施設が新たに完成し、より快適な学習環境が整いました。2019 年度には第Ⅲ期工事（テニスコート等整備）が終了し、中等部校舎建て替え工事の全工程が完了します。

新園舎の建築【幼稚園】

本園の保育の特徴を活かし、保育のねらいが達成できる豊かな保育環境を整えるため、新園舎を建築します。園舎建築の準備段階となる 2019 年度は、施設・設備・建築場所等を検討するための園舎建築に関する情報収集を行い、参考となる複数の幼稚園等の園舎施設見学を実施します。

キャンパス再開発【学院】

・キャンパス再開発・新図書館構想に伴う調査の実施【法人・大学】

学生・教職員・校友が集うアカデミックな活動拠点となる大学新図書館建築に向けた計画を実施しています。2019 年度は、2018 年度に着手した基本設計を完了し、実施設計に向けた計画を順次進めます。また、研究及び学習支援サービスに対する設備、運営体制の強化の実現に向けた検討にも取り組みます。

資料センター所蔵資料検索システムの構築【法人】

学院史資料の利便性向上の一環として、資料センター所蔵資料の活用と公開のためのクラウド型ミュージアムシステムを構築します。2019 年度は、2018 年度に引き続きシステム構築準備として、学院史資料のうち残りの約 1 万件のデータ整備を行います。将来的には、本システムを一般公開することで、多くの方々が本学の歴史に触れることのできる機会を提供します。

「自ら学ぶ力」を育む環境づくり【学院】

・Aoyama Global Passport System の構築【学院・各設置学校】

幼児教育から高等教育までの系統的な学びの中で、在学生一人ひとりについて、サービス・ラーニングや留学を含む正課外の学びを記録するシステムの構築を目指し検討を進めています。2019 年度は、昨年度に引き続き、初等部・中等部・高等部における教育研究システム等を活用したトライアルを実施するとともに、大学を含む設置学校間の連携方法の検討や青山学院の全学的ポートフォリオ像の明確化に取り組みます。

学院教育環境としての次期教育研究システムの構築【学院・大学】

2021 年 4 月の次期教育研究システム更改に向けて、様々な教育・学習活動に対応したシステムの構築を目指します。2019 年度は、本学院及び他校で取り入れている教育・学習手法と ICT の技術的知見とを調査し、2018 年度までに実施した学修空間の充実や情報セキュリティ対策の検討結果と併せてとりまとめ、次期教育研究システムの更改計画を立案します。

Ⅱ．新経営宣言の実現

1. 万代基金の構想【法人】

「万代基金」構想の周知と寄付金大幅増額の実現

2018 年 4 月に、「青山学院・新経営宣言」の基本戦略の一つである「万代基金」を創設しました。「万代基金」は、青山学院のエンダウメント（寄贈基金）です。「フィナンシャル・エイド（経済的理由により青山学院で学ぶことができない学生・生徒をなくす給付型奨学金)」と「教育の質的向上プロジェクト（2024 年度までは AOYAMA VISION)」を使途とします。2018 年度は、「万代基金」構想を周知する施策としてスタートアップ・キャンペーンやメールマガジンの配信等を行いました。2019 年度もこれらの周知活動を継続し、フィナンシャル・エイドと教育・研究資金の充実に努めます。

2. ブランドロイヤルティの再構築【法人】

青山学院に係わる方々の「ロイヤルティ評価＝愛校心」を高めるために、2018 年度に実施した全設置学校の在校生（中等部以下は保護者）を対象としたブランドロイヤルティ調査の結果と、これまでに実施した教職員及び校友対象の調査結果についてデータ分析を徹底し、今後の教育活動に活かして学院の発展につなげていきます。また、「青山学院・新経営宣言」の更なる浸透と教職員への行動促進を目的として 2018 年 11 月に発行した『マネジメントコンセプトブック』に続き、教育的使命を全うする方策を掘り下げていきます。また、学生主導のプロジェクト等具体的な施策を打ち出し、スローガンの”Be the Difference”を「見える化」します。

Ⅲ．その他

情報化時代における人文知の役割の模索【大学】

・「青学 TV」の運用体制整備及びコンテンツ拡充

2017 年 9 月の開設から、試行期、普及・拡充期を経た「青学 TV」は、エンターテイメント性を加味し、スマートフォン視聴を意識した動画コンテンツの作成により、視聴回数や累計サイト訪問者数を順調に伸ばしています。安定運用と発展の段階を迎える 2019 年度は、運用体制を含めた学内における定着化と、更なる本学のブランド価値向上のため、引き続きコンテンツの拡充・洗練化に取り組み、2019 年度末までに視聴回数 200 万回、累計サイト訪問者数 10 万人を目指します。

学院の個性を発揮することのできるサーバント・リーダーとしての職員の育成【法人】

AOYAMA VISION に掲げる「サーバント・リーダー」は、青山学院の人材育成の指針であり、職員自らがその資質を身に付けて職務に当たることが重要です。多様なテーマや方法による「サーバント・リーダー育成研修プログラム」、「組織を活性化する職員育成プログラム」を通じて、職員に求められる知識やスキル習得の機会を提供し、青山学院が目指す人材の輩出に取り組んでいます。「サーバント・リーダー育成研修プログラム」では、本学教員による講演や学院功労者の紹介を行う知識修得編に加え、実践編として、オリンピックやパラスポーツを題材に社会・地域貢献に関する学びの機会を設けました。2019 年度は、現在実施している研修を土台として、「サーバント・リーダーシップ研修」の実施や、大学職員の資質向上に必要な SD（スタッフ・ディベロップメント）の取り組みに求められる職員研修プログラムを大学と連携しながら構築します。

学校の国際化を支える職員のグローバル人材の育成【法人】

社会の急速なグローバル化に対応するため、職員のグローバルセンスの向上及び学院全体の国際化に寄与できる人材の育成に取り組みます。語学研修やグローバル化セミナー、国内外の外部機関への職員派遣等の多様なプログラムの企画・開催とあわせて、語学堪能な人材の積極的な採用、語学力を配慮した人員配置を実施することで、グローバル化に対応した職員人事体制の構築を目指します。

中等部創立 75 周年式典及び記念誌の発行【中等部】

1947 年に第二次世界大戦後の教育改革の中で新しい男女共学の中学校として開設された中等部は、2022 年に創立 75 周年を迎えます。2017 年からは、新校舎にて生徒の主体的な学びを育てる「教科センター方式」を取り入れ、現在も教育改革を進行中です。この 75 年の教育の歩みを辿ることで更なる飛躍につながる記念事業となるよう、準備委員会にて記念式典及び記念誌の発行準備を進めていきます。

『青山学院 150 年史』編纂【学院】

2024 年に『青山学院 150 年史』を発行すべく、関係資料の収集や学院関係者へのヒアリングを実施して、編纂事業を進めています。年史の発行により、過去を顧みる機会を創出し、現状の正しい認識のもと、未来の構築へつなげていきます。2018 年度の『青山学院 150 年史』資料編第 1 巻の発行に続き、2020 年度に資料編第 2 巻、2022 年度に通史編第 1 巻の発行に向けて編纂作業に取り組みます。

〈補足事項〉

P.4 から P.16 に掲載されている法人執行部及び本部事務部署が行う事業計画については、「教育・研究・学術」に係る計画を【学院】、「経営・管理」に係る計画を【法人】と表記しています。

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

【青山学院スクール・モットー】

学校法人 青山学院　2019年度事業計画書

（問合わせ先）本部 総合企画部 03(3409)6384

※学院HPからもPDF形式にてご覧いただけます

ホーム ＞ 青山学院について ＞ 青山学院のデータ ＞ 事業計画書・事業報告書

http://www.aoyamagakuin.jp/

2019年3月28日 理事会承認　（2019年4月発行）